

内なる対話～「意味ある世間話」となるや、否や?!～

堂本 彰夫

- ⑩ 「いちゃりば・ちょうでー」「てーげー主義（なんくるないさー）」は、生きるための「方便」?!
- I : さて、先の話（9と10）での、国（家）のあり様を考える時に、「おきなわ」の「いちゃりば・ちょうでー（行き会えば、皆兄弟!）」とか、「てーげー（大概?）主義（なんくるないさー!）」のことが、一方で頭を過るのですが、これは、いささか唐突過ぎ（文脈が違う?）でしょうかね?!
- D : 否、もちろん、表面的には、そのように言えるのかもしれませんが、ひょっとしたら、どこの地域、国でも、そういうことは関係してくるかもしれませんよ?!何故なら、それは、言わば、一つの（強いて言えば力の弱い?）地域として、国（家）として生きて（生き残って?）いくための「方便」、「苦肉の策」（現実即応主義?）と言えるからです?!つまり、そのことは、まさに人間（社会）の普遍的な行動原理であり、例えば、今現在の、ロシアによるウクライナ侵攻（侵略?）に関わる、当事国の人々・地域、そして、世界各国の動きも、そのように見ることができるといえることですか?!
- I : 確かに、そうなのかもしれませんね?!しかるに、「おきなわ」の場合は、歴史的には、いわゆる「中華帝国（明/清）」と「日本（薩摩/徳川幕府）」の二（三?）重支配（冊封/被支配）の下での、自ら（琉球/おきなわ）の生き方、生きる術だったとも言えるのだと思いますが、自分達より強い力に対して、なるべく逆らわない、諍いを起こさない（侵略?されない）ような振る舞い、そして、ぎりぎりまで周囲の情勢を見極めながら、自分達の行動を決定するというような、ある意味での「したたかさ」、そういうことが、その根底にあったのではないかと思われませんか?!
- D : そうですね?!ただし、そこには、地理的要因（亜熱帯性気候）、そして、多分?先住した人達にある「南方的要素」（時間の観念/約束事のルール等）の存在が、その背後にはあるかとは思いますが、要するに、そのことが良いとか、悪いとかというような、単純な、二者択一的な評価はできない?!つまり、無条件に「いい人（お人よし?）」でもなく、「楽天的（のんびり屋さん?）」でもない?!しかも、それが、ある時から、ある種の「怨念」を纏って生き続けている?!そういうことでもある?!
- I : そんなことを言うと、根っからの沖縄人（「おきなわ」を愛している人?）から怒られそうですが、それなりに長年住み続けていると、そのようにも思えますよね?!特に、それは、第2次世界大戦での「捨て石」とされた記憶が介在しているということでしょうが（とりわけ、復帰前世代の「期待と失望」は大きなものだった?）、その間の被差別感、「沖縄」と「日本（大和）」の間で揺れ動く自己のアイデンティティがそうさせた（すなわち「日本（人）であるが、日本（人）ではない?!」）?!
- D : だとしたら、今こそ、その“おきなわ”の被差別感、怨念、それへの理解とか、その納得できる「対処法」（明るいヴィジョン?）が必要だとも言えますよね?!その逼迫した事例が、件の基地移設問題だと思いますが、だけど、それが、ほとんどの為政者の視野には組み込まれていない（あるのだろうが、少なくとも選挙では、「賛成か、反対か」ということしか問題とならない?）?!だから、いつまでも、隠微な対立や駆け引き（カネで済ませようとする?）で終始する?!そこが、どうにも歯痒い?!
- I : そのことはまた、最近のネット上の、あるインフルエンサーの言動と、それに伴う議論にも、大いに言えますよね?!つまり、そこでは、その対立?の背景にある重要な部分が見えていない?!議論が、どのようにぶつかっているのかは分かるが、その解決（歩み寄り?）の道筋が示されていない（その品性?は、別途問われるべきではあるが!）?!そういうことですよ?!
- D : ある意味そういうことですが、要は、「大変なのです!分かって下さい!⇔何ともなりませんので、引き続き引き受けて下さい!」の平行線となっている?!しかも、それが、どっちが正しいかみたいな話となっている?!妙な言い方ですが、そこには、そこに浮遊している「被差別感、怨念」への深慮（敬意?）がない?!だから、“おきなわ”は、そこで苦悶している?! (つづく)